



平成27年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年5月11日

上場会社名 株式会社サニーサイドアップ 上場取引所 東
 コード番号 2180 URL http://www.ssu.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 次原 悦子
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ管理本部 (氏名) 相田 俊充 TEL 03-6894-3233
 本部長
 四半期報告書提出予定日 平成27年5月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

百万円未満切捨て

1. 平成27年6月期第3四半期の連結業績（平成26年7月1日～平成27年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期第3四半期	9,114	△5.7	△49	-	52	△73.7	△61	-
26年6月期第3四半期	9,667	△5.8	165	△71.7	199	△69.0	72	△83.0

(注) 包括利益 27年6月期第3四半期 △97百万円 (-%) 26年6月期第3四半期 35百万円 (△92.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年6月期第3四半期	△17.51	-
26年6月期第3四半期	20.41	19.73

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年6月期第3四半期	5,202	1,736	30.8
26年6月期	5,613	1,906	31.6

(参考) 自己資本 27年6月期第3四半期 1,600百万円 26年6月期 1,775百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年6月期	-	0.00	-	20.00	20.00
27年6月期	-	0.00	-	-	-
27年6月期(予想)	-	-	-	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成27年6月期の連結業績予想（平成26年7月1日～平成27年6月30日）

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,501	△7.6	△106	-	14	△91.1	△99	-	△28.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年6月期3Q	3,547,200株	26年6月期	3,542,400株
② 期末自己株式数	27年6月期3Q	32,074株	26年6月期	74株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年6月期3Q	3,529,947株	26年6月期3Q	3,538,234株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、昨年8月に中長期経営計画「Road to 2020 and beyond」を発表し、計画達成に向けて「アジアを重点地域とするグローバル化」及び「ストック型ビジネスへの事業開発フォーカス」の二軸を掲げて事業に取り組んでおります。当第3四半期連結累計期間において、当社の基幹事業であるマーケティング・コミュニケーション事業は引き続き順調に推移しており、来期以降のさらなる飛躍に向けた挑戦にも着手しております。その一つとして、イベント管理サービスのグローバルプラットフォームを展開し急成長を遂げる米国スタートアップPeatix Inc.と資本業務提携を行い、当社グループのPRをはじめとするマーケティング・コミュニケーションを生かした新たな収益源の開発を積極化しております。さらに、世界9カ国14万人以上が参加してきた音楽イベント「ロックコープス」の日本開催成功を受けて2015年内での第2回日本開催が決定しており、本年は一層の盛り上がりが見込まれます。また、「日本のおもてなしを世界のおもてなしへ」をスローガンに展開する「OMOTENASHI NIPPON」プロジェクトの動きが活発化しており、「OMOTENASHI Selection 2014」授賞式典の成功、そして、受賞対象事業者の商品・サービスを展示・販売する「OMOTENASHI Selection in 日本橋高島屋」の期間限定オープンも盛況に終わるなど、中期的な成長に向けた取り組みも順調に進行しております。そして、成長途上の「bills」海外事業におけるハワイ店舗は、継続的なPR活動や営業改善の成果として、月間1億人以上のユーザを誇るアメリカ最大手のレストラン予約サイト「Open Table」が主宰する「全米トップ100のランチレストラン2015」に選出されるなど、収益伸長に向けた業務は確実に結実しております。しかしながら、bills海外店舗については出店時期の遅れや入居施設の問題等から国内店舗に比肩する収益を獲得するには至っていないこと、また、S P・MD事業においては予想以上に急激な円安が進んだ結果、製造原価が高騰したことにより各案件の利幅が減少したこと、且つ、当初高収益を期待していた一部の大型案件において一時的に大きく費用が発生し、連結業績減益を招く一因となっております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高9,114百万円（前年同期比5.7%減）、営業損失49百万円（前年同期 営業利益165百万円）、経常利益52百万円（前年同期比73.7%減）、四半期純損失61百万円（前年同期 四半期純利益72百万円）となりました。

本年4月に通期連結業績予想の発表を行っておりますが、その要因となったSP・MD事業、bills海外事業に対する改善策は一部上述の通り順調に進行しており、同時に、当社グループ全体で売上原価抑制及び販管人件費削減に厳格に取り組むことで即効性のある収益改善の実現を図っております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①マーケティング・コミュニケーション事業

PR、プロモーション、デジタル、広告制作、キャスティング等、得意先企業へ総合的なマーケティング・コミュニケーション支援を行い、当社グループの中核と位置付けている本事業は今期においても好調に進捗しております。弊社が数多くの実績を持つ大型商業施設のPRに加え、菓子・飲料・製菓等の外資系クライアント及びレギュラークライアントである大手CVSからの継続的受注、及び複数の大型キャンペーンの受注に成功した結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,485百万円（前年同期比14.3%増）となりました。なお、前々期の設立以来成長を遂げている株式会社クナムエンターテインメントの収益を開発事業からマーケティング・コミュニケーション事業に移管しております。

②S P・MD事業

購買接点における優位性の発揮を主眼にしたマーケティングソリューションを提供するS P・MD事業では、前連結会計期間中にWIST社を連結子会社から除外した影響による売上減少にも、新たな調達先の開拓で利益率向上を図る等、収益力の改善に全社を挙げて取り組んでおり、短期間での集中した体質変革に挑んでまいりました。しかしながら、現時点においては業績の急回復を達成するに至っておらず減収を招くと同時に、予想以上に急激な円安が進んだ結果、製造原価が高騰したことにより各案件の利幅が減少したこと、且つ、当初高収益を期待していた一部の大型案件において一時的に大きく費用が発生しております。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,817百万円（前年同期比44.6%減）となりました。収益の安定的創出を可能にすべく、組織の合理化と新規事業開発に着手。来期早々より、その成果を出す準備を整えつつあります。

③スポーツ事業

日本におけるスポーツビジネス発展の一翼を担ってきた当社のスポーツ事業は、従来の肖像権ビジネスだけに依存しない、スポーツがもつ更なる可能性を引き出すためのビジネスモデル変革にいち早く取り組んでおり、今後も常に世界の注目を集めるスポーツシーンで事業を展開してまいります。オリンピック・パラリンピック関連案件の受注活動も着実に推移しておりますが、2020年を見すえた中長期プロジェクトへのリソース投下等の影響により、当第3四半期連結累計期間の売上高は587百万円（前年同期比14.2%減）となりました。

④bills事業

世界一の朝食としての高いブランドロイヤルティを提供し、圧倒的といえる人気を獲得しているカジュアルオールデイダイニング「bills」は、好調な国内店舗に続き、平成26年3月には当社グループによる海外進出第一号店となるハワイ店を、そして、10月には海外第二号店を韓国にオープンしましたが、海外両店舗は成功に向けた発展途上の段階であります。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,161百万円（前年同期比28.3%増）となりました。国内の七里ヶ浜店舗は開店から8年目を迎えた今なお増収を続けており3月にはリニューアルオープン、また、ハワイ店舗は「全米トップ100のブランチレストラン2015」に選出されるなど、bills事業のさらなる成長に向けた好材料は充実しております。

⑤開発事業

当社グループの中長期的な成長を推進すべく従来のビジネスに捉われない当社独自の事業創造に注力する開発事業では、レストラン「bills」、続いて、著名人のキャスティングを軸としたマーケティング支援やコンテンツビジネスを展開するクムナムエンターテインメント社などの主要な事業を生み出し当事業からスピノフさせてきました。現在においては、アジア、オリンピック・パラリンピック、人財等をキーワードに事業を育成しており、投資段階及び運用初期段階の案件で構成されているため、当第3四半期連結累計期間の売上高は62百万円（前年同期比31.8%減）となりました。「日本のおもてなしを世界のおもてなしへ」をスローガンに展開する「OMOTENASHI NIPPON」プロジェクトにおいて、世界に発信すべき商品やサービスを認定・表彰する「OMOTENASHI Selection 2014」の授賞式典は数多くのメディアで紹介を受け今後の展開に注目が集まるとともに、受賞対象事業者の商品・サービスを展示・販売する「OMOTENASHI Selection in 日本橋高島屋」の期間限定オープンも盛況のうちに幕を閉じるなど、今後の大きな成功に向けた挑戦は順調に推移しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、5,202百万円（前連結会計年度末比410百万円減）となり、資産の内訳につきましては、流動資産が3,032百万円（同516百万円減）、固定資産が2,170百万円（同105百万円増）であります。また、負債合計は、3,466百万円（同240百万円減）となり、負債の内訳につきましては、流動負債が2,168百万円（同720百万円減）、固定負債が1,297百万円（同480百万円増）であります。純資産合計は、1,736百万円（同170百万円減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成27年4月3日に発表しました「通期連結業績予想の修正、及び、配当予想の維持に関するお知らせ」において平成27年6月期の連結業績予想（平成26年7月1日～平成27年6月30日）を変更しております。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第3四半期連結累計期間において、株式会社サニーサイドアップキャリア、株式会社スクランブルを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,001,512	1,269,647
受取手形及び売掛金	1,838,638	1,169,954
商品及び製品	3,720	2,013
未成業務支出金	208,760	275,153
原材料及び貯蔵品	15,131	24,070
その他	488,022	296,396
貸倒引当金	△7,191	△5,193
流動資産合計	3,548,593	3,032,042
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	820,890	984,183
土地	520,818	520,818
その他(純額)	306,547	226,728
有形固定資産合計	1,648,256	1,731,730
無形固定資産		
のれん	22,881	23,184
その他	9,291	4,944
無形固定資産合計	32,172	28,128
投資その他の資産		
その他	432,311	466,573
貸倒引当金	△48,216	△55,930
投資その他の資産合計	384,094	410,642
固定資産合計	2,064,523	2,170,501
資産合計	5,613,117	5,202,543
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,011,490	707,005
短期借入金	1,066,610	839,412
1年内返済予定の長期借入金	263,790	235,872
未払法人税等	141,895	46,514
賞与引当金	—	2,248
その他	405,245	337,555
流動負債合計	2,889,032	2,168,609
固定負債		
長期借入金	311,551	764,415
資産除去債務	48,180	48,902
その他	457,608	484,366
固定負債合計	817,340	1,297,684
負債合計	3,706,373	3,466,293

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	453,245	453,996
資本剰余金	513,845	514,596
利益剰余金	801,543	668,873
自己株式	△106	△30,218
株主資本合計	1,768,528	1,607,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,180	4,603
為替換算調整勘定	4,074	△10,935
その他の包括利益累計額合計	7,254	△6,331
少数株主持分	130,961	120,481
新株予約権	—	14,851
純資産合計	1,906,744	1,736,250
負債純資産合計	5,613,117	5,202,543

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
売上高	9,667,407	9,114,852
売上原価	8,440,374	8,111,989
売上総利益	1,227,033	1,002,863
販売費及び一般管理費	1,061,988	1,052,722
営業利益又は営業損失(△)	165,044	△49,859
営業外収益		
受取利息	292	738
受取配当金	265	292
持分法による投資利益	—	77
為替差益	24,735	89,312
受取家賃	28,963	29,445
その他	6,271	7,687
営業外収益合計	60,528	127,554
営業外費用		
支払利息	10,221	9,520
持分法による投資損失	1,675	—
賃貸費用	12,809	12,507
その他	1,108	3,031
営業外費用合計	25,814	25,058
経常利益	199,758	52,636
特別損失		
固定資産除却損	—	613
固定資産売却損	—	1,989
減損損失	10,593	—
関係会社出資金譲渡損	31,846	—
持分変動損失	2,797	—
特別損失合計	45,237	2,602
税金等調整前四半期純利益	154,520	50,033
法人税等	177,982	133,696
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△23,461	△83,663
少数株主損失(△)	△95,703	△21,839
四半期純利益又は四半期純損失(△)	72,241	△61,823

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△23,461	△83,663
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	895	1,423
為替換算調整勘定	△28,357	△15,009
持分変動差額	86,483	—
その他の包括利益合計	59,020	△13,586
四半期包括利益	35,558	△97,249
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,972	△75,409
少数株主に係る四半期包括利益	△65,413	△21,839

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年11月11日開催の取締役会決議に基づき、自己株式32,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が30,112千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が30,218千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング・コミュニケーション事業	SP・MD事業	スポーツ事業	bills事業	開発事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,924,941	3,281,206	685,099	1,684,016	92,143	9,667,407	—	9,667,407
セグメント間の内部売上高又は振替高	206	107,242	1,300	1,525	—	110,274	△110,274	—
計	3,925,148	3,388,449	686,399	1,685,541	92,143	9,777,682	△110,274	9,667,407
セグメント利益又は損失(△)	540,183	△61,304	93,094	△44,010	△7,695	520,266	△355,221	165,044

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	19,458
全社費用(※)	△374,680
合計	△355,221

(※) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

SP・MD事業において、WIST INTERNATIONAL LIMITEDにおける事業環境及び業績等を勘案して回収可能額を評価した結果、第1四半期連結会計期間末におけるのれん未償却残高の全額を減損損失(10,593千円)として特別損失に計上いたしました。

また、bills事業において、従来からの連結子会社であるFLYPAN HAWAII, INC.の株式を当第3四半期連結会計期間において全株式取得したことにより、のれんが23,444千円発生いたしました。

なお、FLYPAN HAWAII, INC.は、平成26年3月19日付でSSU HAWAII, INC.に社名を変更しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成26年7月1日 至平成27年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング・コミュニケーション事業	SP・MD 事業	スポーツ 事業	bills 事業	開発 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	4,485,605	1,817,397	587,854	2,161,109	62,885	9,114,852	—	9,114,852
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,939	416,506	6,650	2,045	3,737	432,878	△432,878	—
計	4,489,545	2,233,904	594,504	2,163,154	66,622	9,547,731	△432,878	9,114,852
セグメント利益 又は損失 (△)	565,434	△98,742	68,472	△139,722	△55,705	339,737	△389,596	△49,859

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	33,950
全社費用 (※)	△423,547
合計	△389,596

(※) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、当社グループ内での経営管理区分の見直しを行った結果、従来、「開発事業」に含めていました株式会社クムナムエンターテインメントの事業を「コミュニケーション事業」の区分に変更しております。また、「コミュニケーション事業」の名称を「マーケティング・コミュニケーション事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、経営管理区分の見直し後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。